

校長室だより

日本福祉大学附属高校 2014 年 12 月 1 日

万人の福祉のために
真実と慈愛と献身を



福祉大学推薦入試合格発表

福祉大学附属推薦入試結果が 11 月 14 日（金）に発表されました。この日は看護学部を除く 58 名と A0 合格 1 名の計 59 名の合格者が発表されました。職員室前の掲示板には生徒諸君の人だかりが。無事自分の名前を見つけて、「ヤッター」と両手を上げてバンザイする人、静かに喜びをかみしめる人など、それぞれの喜びが見られました。また、29 日（土）には、看護学部（来春開設）11 名と他の入試方法での合格 5 名が発表され、本校から福祉大学への合格者は計 **75 名** となりました。（11/29 現在）合格おめでとう。



センター受験などで他の大学に挑戦する生徒諸君も最後まで頑張ってもらいたいものです。

亀井さん（3 年）私学弁論大会見事 3 位入賞



第 62 回私学弁論大会に出場した亀井亜美さん（3 年）は「世界に笑顔届けるために」と題して、出場 28 名中見事 3 位に入賞しました。「100 円のチョコレートと、300 円のチョコレート、味も量も同じなら、皆さんはどちらのチョコレートを買いますか・・・」と会場への投げかけから始まった亀井さんのスピーチは、部活動である国際協力部の活動を通じて知った、児童労働の厳しい実態とフェアトレードの意義を訴えたものでした。「同じ地球のうえに授かった尊い命を生きる私たち、『その子の未来のために何ができるのか』考え続ける人間

でありたいと思います。」と力強く締めくくりました。おめでとう。

和太鼓部県大会優秀賞、来夏の全国大会有力

11 月 23 日、知立市文化会館において高等学校総合文化祭郷土芸能部門の県大会が開催されました。これは来年 7 月の全国大会（滋賀県甲賀市）の予選ともなるものです。優秀校 3 校の中から上位 2 校が推薦されますが、出場校 15 校の中で、本校和太鼓部は優秀校に入りました。審査員の先生からは「まとまりが大変良かった。個性を超えて曲のイメージを伝えようという強い意志を感じた。太鼓や篠笛のバランスも良く、客席にさわやかな感動が伝わったのを感じた」という評価をいただきました。健闘をたたえます。尚、全国大会出場は 12 月上旬に正式決定します。



介護職員初任者研修、全員修了証を手に



5 月下旬から始まった介護職員初任者研修は、40 名の生徒諸君が応募し、土曜日や夏休みを充てて講義や実習に汗を流してきましたが、11 月 1 日に資格試験を行い見事全員が合格し、29 日（土）に修了式が行われました。修了式では、まず全員がまとめの記録集を読みながら、学んだことを発表しました。その後一人一人に修了証明証が授与され、ベタニアホーム理事長市野先生からお祝いの言葉をいただきました。研修に参加した人は、「知識や技術だけでなく、相手を尊重すること、優しい心、笑顔を絶やさないこと、相手の立場で考えることなど大切なことを学びました」と語ってくれました。ぜひ今後学んだことを生かしてもらいたいものです。おめでとう。（裏面に私からのお祝いの言葉を載せておきました）

(介護職員初任者研修修了の皆さんへ)

バトンを受け継ぐ君たちに

今年は大雨による各地の土砂災害や御嶽山の噴火、また2週連続しての台風の襲来など自然災害の多い年でした。今年はまだ、伊勢湾台風（1959年9月26日）からちょうど55年になるということで、記憶や記録を風化させないために映画が製作され、この秋、各地で上映運動が行われました。

生徒諸君はもちろんのこと、おそらく皆さんのお父さんやお母さんもまだ生まれていなかった時代のことですが、伊勢湾台風は特にこの知多半島に甚大な被害をもたらし、5000名以上の人々が台風の犠牲となりました。当時私は小学校低学年でしたが、家が吹き飛ばされんばかりのものすごい風雨が吹き荒れ、おびえたことを今でもよく覚えています。

当時、私たちの学園では、被災者救援に立ち上がるからこそが社会福祉の原点であるとの考え方に立って、全学をあげて被災者救援活動に取り組みました。その精神は現在も確実に引き継がれ、付属高校生も加わり、東日本大震災への継続的な支援活動に取り組んでいることは周知の事実です。

そうした原点は、学園の建学の精神「万人の福祉のために真実と慈愛と献身を」に基づくものと言えます。現代風に表現すれば、真実とは科学、慈愛はヒューマニズム、献身は実践と置き換えられるでしょう。

内閣府の統計によると2012年(H24)時点で65才以上の高齢者が総人口に占める割合は24.1%に達しており、46年後の2060年には39.9%（国民の2.5人に1人）、75才以上の高齢者は実に4人に1人となるそうです。日本は否応なく、これまで経験したことのない超高齢社会を迎えようとしています。

そんな中、皆さんが介護職員初任者研修に、約半年間もの間、自らの時間や費用を割いて熱心にとりくんだことに、私は惜しめない拍手を送りたいと思います。例は異なりますが、前述したように、学園の先輩方が「被災地（実践）から学べ」と伊勢湾台風の被災者救援活動を行った姿と重ね合わせる思いがします。

介護初任者研修を修了した皆さんには、今後専門的な知識や技術を生かし、介護が必要な方々のお役に立てることを期待しています。すぐにはそういう仕事につかない人もいるかもしれませんが、この研修で学んだことはこれからの皆さんの人生に必ず役に立つものと確信します。

最後になりましたが、毎年この研修のために心血を注いで、講義や実習や様々なお世話をいただきました市野先生始めベタニアホームの諸先生方に心からお礼を申し上げます。

先生方のご尽力のおかげで、生徒諸君は無事に、全員修了証を手にすることができました。それにとどまらず、先生方の熱心なご指導により、生徒諸君はきっと人間的に一回りも二回りも成長したことと思います。本当にありがとうございました。（校長 岩本憲之）